

羅 針 盤			方 策		達成状況のまとめ及び次年度の課題			学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目	点検・評価	達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題			学校関係者評価	
			自己評価	外部アンケート等	総合				
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	地域交流や地域貢献を目的とした活動や行事等に参加した生徒の80%以上が満足している。	A	A	A	地域との交流・貢献活動に取り組み、その活動に満足していると回答された方が平均95%に達し、特色ある学校づくりに努めていると判断できます。しかし、生徒の中には取り組めていないものが25%ほどおり、まだ地域交流事業のPRや事前指導を行う必要があると思われる。			今回の結果を踏まえ、今後も継続して努めていってほしい。また、1年次から参加できる活動についても検討してほしい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 ※加筆・修正してもよい。	① 授業がわかりやすいと80%以上の生徒が答えている。	B	A	A	生徒の実態に応じた指導については、「取り組めた」「やや取り組めた」で95%以上の回答が得られた。また落ち着いた雰囲気の中で授業ができていくかについても89%以上の回答が得られたことから、概ね授業がわかりやすく落ち着いて取り組めていることがわかる。しかし、数%の生徒は取り組めないとの回答をしている。この生徒たちをどのように引き入れるかが今後の課題である。			わかりやすい授業の展開は、資格の取得率を向上させているので、今後も生徒にわかりやすい授業を実施してほしい。また、資格は将来的に考えても必要なものであるため、一人ひとつは取得できるよう指導をお願いしたい。
		② 資格取得にむけた指導に70%以上の生徒が満足している。	B	A	A	資格取得についても「取り組めた」「やや取り組めた」に85%以上の回答が得られました。今後も指導方法を改善しさらに多くの資格取得に取り組めるよう考えたい。			
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	授業を中心に、学習に対して意欲的に取り組んでいると自己評価している生徒が、70%以上である。	B	A	A	生徒の学力については、生徒自身は91%と本人たちとしては学力が身につけていると自己評価をしている。一方で保護者、職員は80%と回答をしている。しかし、生徒のこの評価を大切に、もっと取り組めるよう改善が必要である。			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	学校生活全般における身だしなみの改善・挨拶指導が十分に行われていると評価する生徒が70%以上である。	A	A	A	身だしなみの改善・挨拶指導については概ね評価を得ることができた(アンケート評価:職員72%・生徒95%)。職員の指導の仕方については、学年やコースなどで差があり、今後学校全体で統一した指導ができるよう、基準を明確にするなどの対策を講じていきたい。			学校指定のポロシャツは白だけでなく紺もあった方がよい(透け防止)。冬季は女子生徒のハニフスタイルが見られる。学校指定のジャージであれば許可するなどとした方が見栄えが良いのではないかと。生徒と直接関わる先生だけでなく、学校全体で見守れる体制がとれていて良い。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	① 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に複数回実施している。	A	A	A	会議だけでなく、日常的に生徒の情報共有し、迅速に対応できている(アンケート評価:職員93.1%)。小さなことでも学年→生徒指導主事→管理職に情報共有し、必要に応じて会議を開き、組織的に対応できている。			
	② いじめの未然防止に努め、早期発見・早期対応に努めていると評価する生徒が80%以上である	① 職員会議・学年会議等の議題として情報交換を実施し、全教職員間で情報を共有し、組織的な指導を行う。	A	A	A	担任が行う二者面談、アンケートなどを活用し、自分の悩みを相談できると感じている生徒が多い(アンケート評価:84%)。一部の生徒は自分の気持ちを訴えることが難しく、悩みを抱え込み深刻化するケースも多いため、面談やアンケート以外でも一人一台端末なども有効活用してさらにSOSが出しやすい環境を設定していきたい。			
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 遅刻率が0.8%以下である。 ② 欠席率が1.5%以下である。	① HRや授業の開始時間を守るよう指導し、時間を守ることの大切さを伝え続ける。保護者と連絡を取り合い、連携して指導する。	B	B	B	遅刻・欠席の減少に向けた取組みがあまりできていないと感じる職員の割合が多かった(アンケート評価:28%)。遅刻欠席が多い生徒の保護者とうまく連絡が取れないケースがあり、家庭との連携が難しい部分がある。教員からの声かけや遅刻指導等では限界があり、次年度以降は具体的な策を検討していきたい。			
		② 本人・保護者との連絡を密にし、必要に応じて面談や家庭訪問を実施する。また、進路を踏まえ、欠席数を増やさないことの重要性を理解させる。長期欠席者に対しては、カールカセ7等とも連携し生徒理解と原因把握に努める。	B	B	B	遅刻は癖になるとなかなか改善できない。家庭とも協力してなんとか改善してほしい。			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	学校から提供される進路情報や進路関係行事等が進路を考える上で役に立っていると評価する生徒が80%以上である。	B	A	A	生徒が進路を考えるきっかけとなるのが、進路ガイダンスや進路相談会などへの参加による進路情報の獲得であり、生徒が興味を持って進路行事に取り組む様子が各学年で受けられ、概ね目標は達成された(アンケート評価:保護者91%・生徒92%)。今後も進路行事への積極的な参加を促していきたい。			第1志望不合格だった原因を確認し、来年度に生かせるような手立てを模索してほしい。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	① 自己の生き方と将来の職業について考えている生徒が75%以上である。 ② 目標とした進路を実現できた生徒(3年生)が90%以上である。	B	B	B	「自分の生き方や将来の職業」について考えていない生徒も一定数おり(アンケート評価:保護者81%・生徒84%)、生徒と保護者の間の情報共有も含めて、さらにキャリア教育の充実を図る必要がある。			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	「学校の様子がよくわかる」と評価する保護者が75%以上である。	B	B	B	3年生の進路については、目標とした進路を実現することができたとの回答が多く見られた。(アンケート評価:保護者94%・生徒92%)。就職・進学試験での不合格、進学から就職への変更等、生徒が第一志望としていた進路先が変更されたことなどにより、実現が難しかったと考える生徒もいたと考えられる。生徒が第一志望への合格ができるように今後もキャリアカウンセリングや就職・進学対策を充実させたい。			各学科やコースの内容がわかる発信をお願いします。特定のコースに偏らず、生徒皆さんが全員掲載されるように努力をしてください。
			WEBページやSNS、連絡メール、クラスルーム等を活用し、学校の様子をわかりやすく保護者及び地域に発信できるように工夫や充実を図る。	B	B	B	新しいシステムによる連絡メールやクラスルームを活用した情報発信を行いました。文書等は直接保護者につくが、保護者がメールを見ないケースが多い。また昨年度に比べインスタ等の発信が少なく、特定のコースに偏っているなどのご意見をいただきました。次年度のは全学科が発信できるよう職員の研修を実施したいと考えています。		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICTを活用した授業及び特別活動に生徒の70%以上が満足している。	B	B	B	本年度も1年生においてはICT機器の設定が遅くなりご迷惑をおかけいたしていましたが、クラスルームを活用した課題等で各自活用しているところがあります。今後も授業や課題で活用できるよう工夫をしていきます。			ICTの設定は早く進められるよう努力をお願いします。各授業やHRでの活用を進めてください。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	職員連絡及び会議資料、採点等のデジタル化を行い、職員の70%以上が業務改善につながったと認識している。	B	B	B	デジタル採点、学校支援システム、校務支援システム、Googleネットワークサービス等を適切に活用し、適切なツールを利用しやすい体制を整え、時間短縮と業務の効率化を図る。			